

「事業者向け放課後等デイサービス自己評価表」及び
「保護者等向け放課後等デイサービス評価表」

アンケート調査結果報告書

共生型福祉サービス事業所「タップチップス」【児童発達支援・放課後等デイサービス】を利用されている児童全員にアンケート用紙を配布し、ご記載して頂いた内容を参考に、全職員にて現状の課題を分析しました。課題を列挙し、実施計画を検討いたしましたので、以下の通り、ご報告申し上げます。

環境・体制整備について

保護者及び全職員より「環境・体制設備は整っている。」と、ご回答をいただきました。しかし、一部の職員より、「重症心身障がい児を受け入れる際に、多動の子と同じ空間では、突発的な動きに対応できず、ぶつかって転倒する危険性が高い。要所に仕切りとなるような遊具（例えば、その遊具がある為、走れない環境）を設置してはどうか。」との意見が挙がりました。

課題は、「重症心身障がい児と多動児との共有スペースを明確にする。」こととし、改善に取り組む事を確認しました。

業務改善項目について

アンケート項目に沿って、全職員より意見を発言して頂き、改善項目を討議しました。平成 29 年 10 月に開設して約半年ですが、「まだ手探り状態で余裕がない。」との意見が大半でした。

課題としては、「職員研修の積極的参加を進める」こととなりました。具体的には、地域研修に参加し、他の事業所の取り組みを参考する、県社会福祉協議会等が開催する研修会に参加することとしました。

適切な支援の提供について

アンケート項目より、「出来ていない事が多いと痛感した。」との意見が多かった。毎日のミーティングは行っていますが、記録を残しておらず、課題を振り返る時のツールがありませんでした。今後は、ミーティング日誌を作成し、事業全体の振り返りに活用する取り組みを確認しました。

また、個別支援計画についても、サービス等利用支援計画を基本として立案していますが、「支援目標に準じて支援が出来ているか。」と自問自答したところ、全職員が、「充分とは言えない。」という見解でした。

今後は、個別支援計画を基本として、放課後等デイサービス計画・児童発達支援計画書を立案します。その為に必要な勉強会を事業所内で開催します。必要であれば、福岡県社会福祉士会児童発達支援管理者研修部会のスタッフに来所して頂き、演習を行う事としました。

関係機関との連携について

他の事業所との連携は出来ているとの答えが大半となりました。相談支援専門員の出入りも多く、常に情報を収集して、他の職員との連携を図っています。しかし、現状は自立支援協議会等への参加は出来ていません。

課題とはいえませんが、今後の進め方として、他職種間との連携を増やし、社会資源を活用して、利用者が有益なものになるように努めていく必要があるとの認識に至りました。

保護者支援については、全職員より「可能な限り、行えている。」との回答で、特に課題はみつきりませんでした。慢心とならぬように注意を払って対応を進めることとなりました。

保護者への説明責任について

開設して半年経過しましたが、保護者会は一度の開催でした。保護者同士の連携は、「特段、支援をして

いない。」というより、「支援の仕方がわからない」、「何を支援すればいいのかわからない」との意見が大半でした。保護者会で連携を強制することで「個人情報保護法に抵触する可能性はないか」との意見も出ました。これを機会に、保護者等に保護者同士の連携を図る意向を尋ねることとしました。利用児の意思疎通や意思伝達については、絵カードを用いたり、色分けしたりして、工夫して接していますが、施設行事等の事業所から保護者等への情報発信は十分とはいえません。今後の課題として、ホームページを積極的に活用し、施設行事や月間スケジュールを周知することとしました。

非常時等の対応について

アンケート項目に沿って検証した結果、非常時等の対応については「不十分」との見解に至りました。課題として、「避難訓練等は実際に行動する事で随時出来ている」ことが確認しましたが、「虐待防止や身体拘束についての学習会等」については出来ていませんでした。

職員からの多数の意見として挙げられた回答は、「身体拘束したり、施設した部屋等に入れたりしていませんが、何が身体拘束とみなされるのでしょうか。」との質問がありました。

前記しているように、研修会等に積極的に参加し、知識を高める必要がある。また、各対応マニュアルは作成していますが、「それらが周知されているか」と質問を置き換えると、「行き届いていない」との答えでした。

改善策としては、定期的に研修時間及び、勉強時間を開催し、非常時に対する知識を身に着けることとしました。例えば、第4木曜日の午後に研修時間に充てる等して、非常時の知識に触れる機会を増やすこととしました。

子ども達のアレルギーに関しては、「栄養士を中心に充分配慮している」との見解でした。ヒヤリハット事例は作成していませんので、非常時に全職員が冷静に対応できるよう、早急に対応する事を再確認しました。

全職員より総論

今回のアンケートにより、全職員より「如何に対処出来ていないか」、「やらなければならないことを再認識した」、との感想でした。

成長して卒園していく子供たちもでてきたので、よりよい環境・体制をつくり、保護者様や社会に対して、よりよいサービスを提供するために、将来を見据えて支援する必要があることを再認識、再確認するための良い機会となりました。

問題が生じてから考えるのではなく、関係各所の知見を集約し、事前に対処を学び、安心・安全な環境および体制を築いていきたいと考えております。